

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600053		
法人名	株式会社 二千翔		
事業所名	グループホーム ほたる		
所在地	苫小牧市拓勇西町4丁目19-27		
自己評価作成日	平成29年2月14日	評価結果市町村受理日	平成29年10月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシェ研究所
所在地	江別市幸町31番地9
訪問調査日	平成 29 年 2 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念《ありがとう、言われるよりも伝えたい》
ありがとうと感謝をされるよりも、感謝の気持ちを持って、日々ありがとうを伝えられるような介護を目指しています ・どんな状況にあっても、ここを終の棲家として暮らせるよう、人生の先輩として尊敬し、尊厳を傷つけないように接しています ・季節の行事や誕生会にご協力して頂き、普段からくつろいでいただけるよう情報交換をしながら、ご家族と連携しています ・個々の生活リズムを把握し、自分らしく安心して安全に暮らせるように配慮しています ・以前より続けている、小学校や保育園との交流、中学校の職業体験受入れ、町内会のお祭りに出店するなど、近隣住民との関わりを強化するよう努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームほたるでは、人と人との絆を大切にして居心地の良い生活を支援するホーム理念があります。職員は理念を理解してケアサービスに反映しており、職員が利用者の名前を入れて作成した「名前詩」を居室内に飾り日常のケアを通して利用者と職員間の信頼関係を築いています。地域との交流の機会として、利用者が町内会イベントへの出店を手伝ったり、保育園児やボランティアによる慰問、小中学校の体験学習受け入れなどを行っています。事業所は看取りを行う方針があり医療機関との緊密な連携と介護技術の研鑽を重ねた職員によって、看取りを希望する利用者や家族に安心感を与えています。来訪家族へは利用者の様子を丁寧に伝え、さらに、担当職員によるお便りと多数の写真を載せた利用者一人ひとり専用の「ほたる通信」を毎月郵送するなど利用者の詳細な情報提供に努めています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作成した理念を玄関に提示している。毎回ではないが、ミーティングの時等理念を再認識できるような場を持ち、全員が同じ方向を目指し、日々実践できるように努めている	職員それぞれが理念を意識した目標を設定しています。個別面談でも確認を行い職員全員が理念を理解し、利用者へのケアサービスに反映しています。事業所理念を日常業務やミーティング等で再確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小中学校の授業の受け入れや、保育園児の施設行事への参加や、町内会のお祭りに出店している。	利用者と職員が共に参加する町内会の祭りへの出店をしています。事業所の敬老会には保育園児の来訪があります。小中学生の体験学習受け入れ、ボランティアによる慰問など交流の機会があります。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校へ出向き、キッズサポーター養成講座を、職員の寸劇を交え行っている		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の活動や、評価への取り組みを報告し、会議で出た話し合いの記録をミーティングで検討している	運営推進会議は、市及び地域包括支援センター、家族が参加して定期的に開催しています。会議では運営状況報告や参加者との意見交換を行っています。	地域住民に依頼していますが、会議への参加が得られていません。地域からの参加により日常的な交流の促進や災害時の協力体制などの充実も期待されることから、幅広い立場の参加者が増えるよう取り組んでいくことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や避難訓練に参加してもらい、協力体制を築くように取り組んでいる	複数の行政関係者が運営推進会議に参加しています。管理者も頻繁に行政担当窓口を訪れて相談や情報交換を行っています。また、認知症サポーター養成講座や市の福祉行事に協力して行政との協力関係構築に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段から、身体拘束について話し合える環境を作り、夜間以外は施錠しない、拘束の無いケアに向け取り組んでいる	系列グループホームとの合同勉強会や外部研修会で身体拘束のないケアを学んでいます。関連マニュアルの整備と身体拘束を行わない運営方針を意識してケアサービスを行っています。玄関の施錠は夜間のみです。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について話し合い、理解を深め、防止につなげるよう努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開いているが、全員が理解できているとは言い難い		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談時や契約時に詳しく説明し、話し合い、理解して頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アイデア募集の箱を玄関に設置している。入居者様とは日々のケアの中で、ご家族様とも連携を取り意見を聴取するよう努めている	家族の来訪時に利用者の様子を説明しています。担当職員による利用者の様子と写真を掲載した事業所便りを郵送して詳細な情報提供をしています。家族からの要望等は経過記録に記入し、課題解決に取り組んでいます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見やアイデアを出し合い、検討するよう努め、個人の意見が聞けるよう、面談の機会を設けている	代表者や管理者と職員は、日常業務や会議等で運営に関する話し合いを行っています。職員からの提案で入浴時に使用するシャワーチェアを設置するなど事業所運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績に応じて昇給を検討し、介護職員処遇改善交付金を活用している。福利厚生を利用し、職員間の交流を図り、職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの資格や、実績に見合った研修を受けられるよう配慮し、福利厚生を利用して個々のスキルアップを図るように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	他のグループホームと交流し、ネットワークづくりをし、お互いの向上に努めている		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時に、本人に施設内を見学して頂き、不安や心配を取りのぞくように努めている。また、来設できない方には、こちらから出向き面談し、意見や希望を聞きながら信頼を築く努力をしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりにも努めている	入居相談時に、ご家族様にも施設を見学して頂き、話し合いを重ね、不安の解消に努めている。入居開始時より、担当者が月に一度手紙を書いたり、来訪時や電話などで話す機会を設け、信頼を築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個人の情報を基に一人一人に沿った対応に努めている。また、ご家族様と連携を取り、希望を聞きながら、その時に必要とする支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ボランティアにならないよう、理念を基に、一人一人が《今できる事》を無理せずに行え、その人なりの自立ができるよう支援している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ほたる通信や担当者からの手紙、電話等で行事へお誘いしたり、来訪時にその方の歴史や好みを聞き、現在の心身の状況を話し合い、共に支えていく関係を築くよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時は落ち着いて話ができるよう、好きな場所でくつろいでいただけるよう配慮している。また、馴染みの場所へ訪問できるよう努めている	知人等来訪者がある時は歓迎し、気楽に過ごせるよう配慮しています。馴染みの場所への外出は希望によって職員が同行したり家族に伝え利用者の希望を叶えるようにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の今の状態を把握し、なるべく入居者同士で解決できるよう、見守りながら間接的支援を心がけている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者の中に継続的な関わりを必要とする方はいないが、今後も相談に応ずる旨を伝えている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者制度を設け、より個別のニーズに合った対応を心がけている。また、毎月のカンファレンスや担当者会議で意見を出し合い、検討している	担当職員が中心となり、日頃の関わりから思いや意向を把握しています。困難な場合は利用者の反応、諸記録確認ミーティング等で検討して、本人本位の支援に努めています。	職員は利用者の望む事を生活を共にする中で把握するようにしていますが、利用者の気持ちを汲み取る方法について事業所として検討し、ケアマネジメントに活用できるような仕組みを作っていくことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で本人との会話ご家族との会話をアセスメントや経過記録に記載し、全職員が周知できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に気を配り、個別に記録し、毎朝夕の申し送りですべての職員に伝わるようにしている。また、緊急時には臨時のカンファレンスを開催している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度全員でモニタリングを行い、家族も参加できる担当者会議を開催し、期間に関わらず介護計画を見直し、作成できるようにしている	毎月のモニタリングで担当職員が中心となって利用者の状態を協議しています。担当者会議では家族の参加も得て希望や利用者の希望に沿った計画となるようにしています。利用者の状態に即した計画の作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、申し送りを行い、情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃より臨機応変を心がけ、一人一人に合ったサービスができるように配慮している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防やご家族の協力を得て、避難訓練を行っている。また、ボランティアとして、メイクやセラピーマッサージにも協力を得ている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医と訪問看護で健康管理を行っているが、希望に応じた病院受診ができるよう支援している	協力医療機関による訪問診療が月2回、訪問看護師による健康チェックが毎週あります。かかりつけ医等への通院は家族が行っています。職員が通院に同行する場合は受診内容を経過記録に記載しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、個別の訪問以外に週一回の定期訪問を実施し、24時間体制で相談ができるよう連携している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、ご家族の希望や了承を得たうえで、医師に病状説明や治療計画を受け、ご家族も含めて話し合い、早期退院できるよう支援している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取り介護の方針について説明を行い、重度化した際には、主治医・訪問看護師と連携し、本人・ご家族の希望を聞き、状況に合わせて話し合い、看取りまで取り組んでいる	入居時に看取り方針を説明し、「急変時確認書」に同意を得ています。終末期には主治医の判断に基づいて「看取り介護についての同意書」を交わしています。事業所は医療との連携を構築し、職員も終末期支援の技術の向上に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が緊急時に対応できるよう、年に一度応急手当の訓練を実施する		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の避難訓練を、夜間や人手の少ない時間帯の想定で実施し、玄関と非常口に持ち出し袋を用意している	年2回の避難訓練を夜間想定を含めて実施し、防災理念を事業所内に掲示しています。出入りに設置の非常持ち出し袋、自然災害に備えたコンロやストーブ、食品等の備蓄品準備、救命救急訓練指導員の資格を持つ職員による訓練など災害に備えています。	避難訓練は地域に呼び掛けていますが、参加がありません。大規模自然災害でも地域の相互の助け合いが大きな成果を上げています。災害時に利用者の生命を守るために必要な支援について検討し、事業所の取り組みだけでは不安がある部分は地域の協力関係を構築していくことを期待します。
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を基本とし、一人一人の人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けを行っている	職員は、事業所理念と運営方針を意識し、利用者の思いを大事にしながら誇りやプライバシーを損ねないよう配慮しています。一部個人記録が居間兼食堂に有りますが、関係者以外は閲覧できないよう気をつけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力を把握し、個々のできる中で選ぶ機会を作り、それぞれが納得できるよう配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者様優先は周知できているので、一人ひとりにあわせ、希望に沿った対応を前年度以上に支援できるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し個々の希望に添うよう支援している。また、季節に合わせた好みの服装を選べるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞きながら買い物から後片付けまで自ら進んでできるよう誘導し、みんなで一緒にできるよう支援している。また、個別に外食する事もある	食材は外注しており献立も決まっていますが、利用者の嗜好や病状等を配慮して事業所で調理しています。行事等の際には出前を利用したりベランダで食事を取るなど変化を付けています。利用者ごとの外食なども支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分が確保できるよう配慮し、必要な栄養が摂れるよう、食事形態を個別に合わせ工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけをし、歯科医師の指導の下、口腔ケアを行い、うがいのできない方には口腔清拭を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックで個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう、声かけ・誘導・介助を行っている	全員の排泄パターンを把握し、時間間隔や様子を見極めながら声かけ誘導を行い全員がトイレで排泄をしています。失敗を減らすことで下着類も紙パンツから布パンツへとできるだけ快適な状態で過ごせるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便を確認し、薬だけに頼らず、乳製品や食物繊維の豊富な食事・おやつ摂取、運動など工夫している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週二回以上を基本とし、いつでも本人の希望に添えるよう支援している	入浴は午後に行っていますが、希望によって午前や遅番勤務中の時間帯も可能です。職員の提案によってシャワー椅子を設置しています。入浴を嫌がる利用者には話しかけ方や担当者の変更、家族の協力など工夫し入浴を実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう、日中は活動の声かけを行いながらも本人のペースに合わせている。眠れない時は一緒に過ごす等、安心できるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを全職員が把握でき、誤薬防止の為本人と一緒に確認しながら服薬している。症状の変化については職員一人一人が気を配り、医療関係と相談できるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	18	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的な事で、できる範囲の家事を継続できるように努めている。入居者・職員共に誘い合って楽しめるように工夫している		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のの人々と協力しながら出かけられるように支援している	1階2階誘い合って外出している。他に、個人の希望や状態に合わせて対応している	気候の良い時期には、事業所前の公園散歩を楽しみながら子供たちとの交流をしています。また、車で道の駅、地域行事、花見、初詣など利用者の希望に応じて出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・ご家族の希望により所持している。買い物の際は、職員が付き添い、本人に支払いをして頂いている		
51	19	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や状態によりその都度対応している		
52		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は安全に動けるよう工夫し、温度計・湿度計を設置し、健康面にも配慮している	広い居間兼食堂は採光に配慮され温湿度計や空気清浄機を設置しています。季節の飾りや写真を飾っており食事時間以外は利用者の気に入った場所で寛いでいます。浴室やトイレの共有部分も清潔に保ち、利用者の身体状況に配慮し使用しやすいよう洗面台の高さ、手すりなどの工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になったり、少人数で過ごせるようなコーナーを作り、思い思いに過ごせるように工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真など、自由に持ち込んでいただき、心地よく安全に過ごせるよう、本人・ご家族と話し合い工夫している	利用者の目印となるよう居室ドアの側には職員手作りの飾りがあります。室内には広いクローゼットが設置されており、私物をすっきりと納めることができます。利用者は馴染みの調度品等を好きなように配置しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札をかけ、わかりやすくなっている。タンスの引き出しも、混乱しないように張り紙などで工夫している		